

やってくる夏鳥達が暖かな陽気と緑にふんわりと包まれた樹々の梢で高らかに笑い、私にアピールしている。冬の間、旭川近郊の石狩川やゴミ最終処分場で採食していたオオワシ、オジロワシも姿を消し、三月中旬にはもうアオサギ連中がいつものコロニーにやってくる。

夏山への足ならしとして山の奥深く、高くへと山菜を求め。行きはカラのザックに帰りは竹の子(ササの子)をメインに、フキやウデetc山の恵みに感謝して、季節を味覚でも感じいつている。(書きながら味が舌に蘇る。)

もうこのあたりから私も気分が多忙になってくる。今年はこの山のあの花をのがさないようにしよう。少し運動不足だから岩登り(フリークライミング)にも行きたいし、観覧会や講習会にも参加したい…。いろいろな計画が頭の中を駆けめぐりまたそれだけでもウキウキしている自分がある。六月になると近くの嵐山へ「声のぶっぼうそう」を聞きにナイトハイキング。光をもたないで森の中へ入っていくのも五感が刺激されていく。多くの小動物や鳥の営みも足元の植物や樹にしがみついている虫達も、普段は見のがしていること気付かないことを教えてくれる。(暗闇でも徐々に眼が慣れてくると

休日には街を離れ 自然の中で過ごそう

柳田和美

許される限りの休日の時間、私は春夏秋冬の楽しみを自然の中で見出し、野山ではウグイス、ツツドリ、共に変化してきている。

春は雪解けと共に春の野草に再会し、野山ではウグイス、ツツドリ、カッコウはじめ、そろそろ子育てに

足元も樹も草も風さえもみんな見えるのです。

我家は高台のマンションの七階に位置し、大雪山の山並みと真正面に対座している。四季を通じて、その移り変わりを眼にする幸福を得ている。その中にいるとその価値や大切さが薄れていくことが多いがこの街旭川の良さを身を持って堪能している。ただ頂をめざして登る山も、最近に変化した。花を知り樹々のデーターも深まり、空をかける鳥やチョウにも興味深く、文明の便利さに慣れた生活を忘れ野山を歩く。見えなかった事が見えてくる時、心の高まりや感動を与えてくれる時、私は自然の中で自己満足しているようだ。

夏から秋へは一瞬のうちに過ぎてゆく。秋の野山や森で、広葉樹の落葉がかれんなダンスを楽しんでいる。色の落ちた空間はまた一種の落ち着きを与えてくれる。

そして北海道らしい自然を味わうのはやはり冬につきる。雪の上も山スキーやかんじきで動きまわり、真っ白な平面に残された足跡や食物を求めて現れる動物との出会いや、食痕を見つげたり次の季節の準備をしている冬芽を探したりと、あきることがない。

そんな一年を過ごしている。だが、悲しいことに今年ほど多くの自然破

壊等がニュースになり環境保護を認識させられた年はなかったのではないだろうか。ただその事がごく一部の人々の間だけの問題ではなく、地球に生活する一人一人の意識の中で根付いてもらいたい。

私は、永遠に「自然を守り育てる心と手をもっていたい」自然が私の心を豊かに育て、導いてくれるから。